

## 2017（平成 29）年度 認知症看護対応力向上研修【愛媛会場】 報告

開催日時：2018（平成 30）年1月 20 日（土）, 21 日（日） 9：00～16：30

会 場：愛媛大学城北キャンパス あいミュージズ（愛媛県松山市道後樋又 10-13）

申込者数：91 名（会員 15 名, 非会員 76 名）

受講者数：90 名

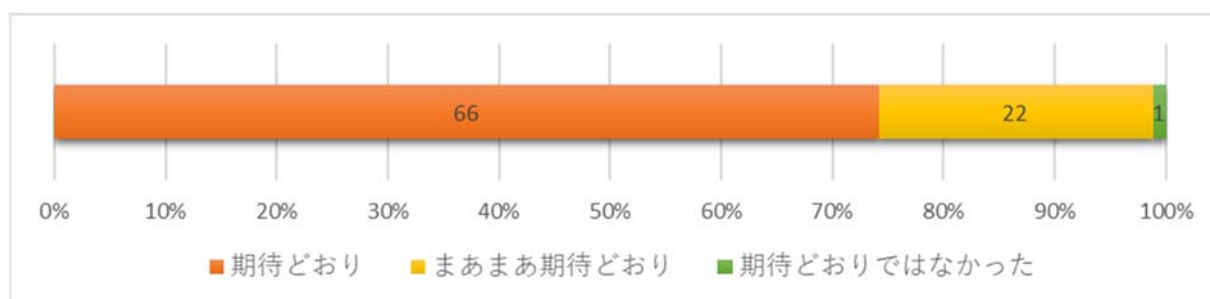
受講証明書付与者数：90 名

アンケート：回収数 89（回収率 98.9%）



### I. 研修会全体について

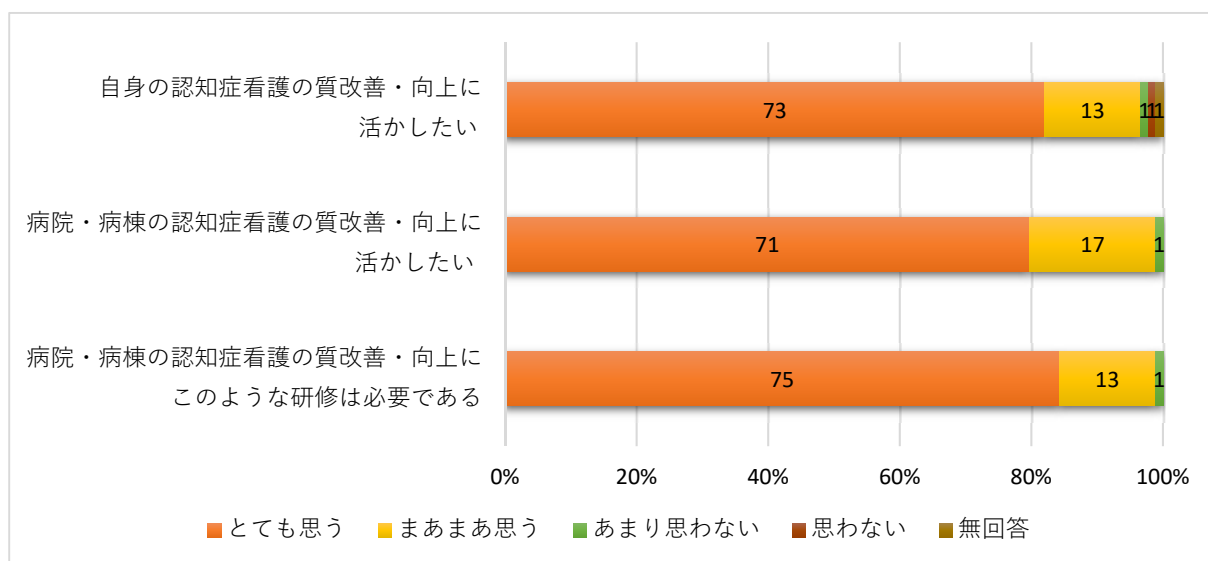
#### 1. 研修会の内容は期待どおりであったか



#### <回答理由・抜粋>

- 急性期病院での看護が全体のメインだったように感じた
- 演習を含め講義の構成や内容が充実していた。次年度の研修企画の参考にしていきたい
- 講師の方々がすぐに実践できる内容を重視してくださっている気持ちが伝わりました
- 初めての参加でしたが、考え方や知識の再確認ができた。看護と介護の質の向上は普段仕事をするうえで気にしているところなので、自分の職場に持ち帰って実践していきたい
- どのような内容であるか楽しみにしていた。楽しく理解できた。
- 介護職の私にもわかりやすく、本当にいい経験になりました
- 基本的な所から実践に活かせる内容になっていた
- 学んだことが明日からの実践に使いそうな内容が多かったから
- 環境づくりを後押しされる意味づけを学びたかったため
- 内容が多く時間内に収まりきらず、急ぎ足で終了するときがあった。せつかなので、詳しくもっと聞きたかった

## 2. 研修を受けての感想



### 1) 研修を受けて、自分の認知症看護の質改善・向上に活かしていきたいと思うか<回答理由・抜粋>

- 個別性のある認知症看護がまだまだであったため、現場ですぐに活用したいと思った
- 看護や病状、症状の知識を深められた。せん妄についてよくわかった。
- 認知症患者への自分自身の対応の仕方を見直すきっかけとなった
- 必要以上に拘束していることが多いので改善していきたいです
- 学生の認知症看護における教育プログラムに活用していきたい
- 認知症の方の生活のしづらさを少しでも減らしていきたいため
- 今までの自分の対応を見直すことができ、より患者に活かしていきたい
- 研修内容をスタッフに報告書として情報共有するとともに、自分が実践して周りのスタッフに影響を与えられるように努力したい
- これまでのかかわり方を再度振り返りどこに問題があったかを学習の後での課題を出していく
- 研修にもありましたが、今までの経験だけで判断していたので、きちんとアセスメントしていきたい
- 知識不足だったと思い、とても勉強になった
- 上手く対応できない自分や病棟スタッフをみてジレンマを感じていたが、手掛かりをいくつか知ることができた

### 2) 研修を受けて、病院・病棟の認知症看護の質改善・向上に活かしていきたいと思うか

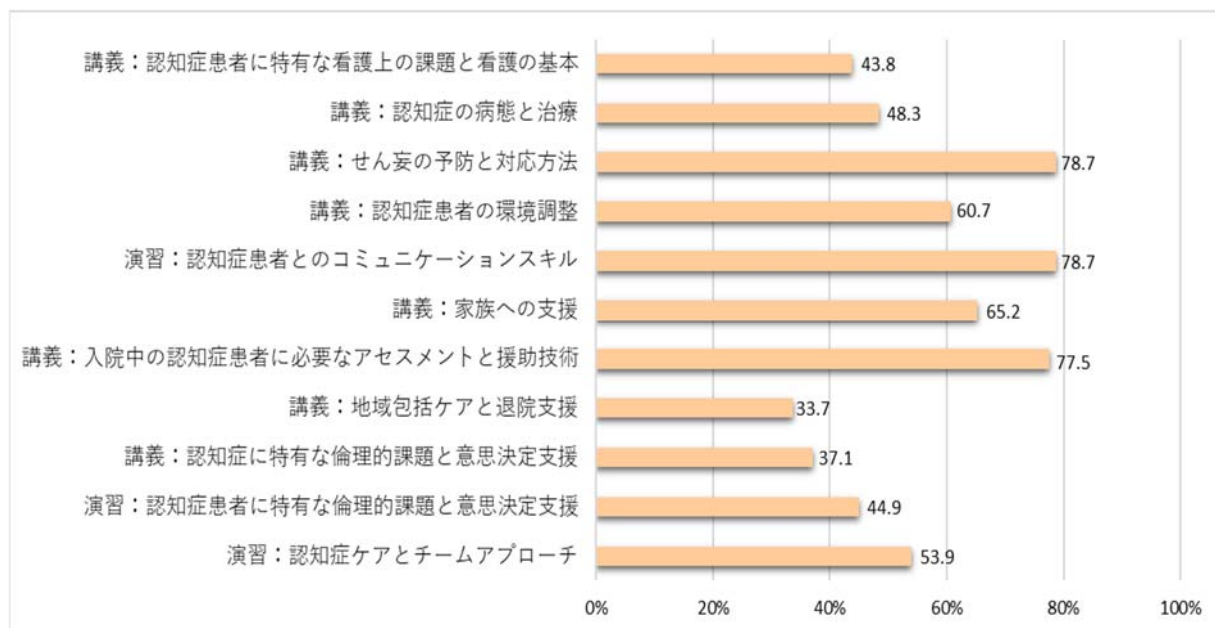
<回答理由・抜粋>

- 対応に悩んでいるスタッフも多いため、伝えていきたい
- 自分自身が認知症に対する学習が不十分で、当病院では認知症の患者が多いのですぐに活用し質を高めていきたい
- 当病院では高齢者が多く、認知症の患者も増えてきているのでぜひ活かしていきたいと思います
- 認知症に限らず看護師として必要なその人を見るという基本を振り返ることができた
- 地域でもとめられる施設になれると考えるため
- 高齢者が多く認知症患者も手術・治療を受けるにあたり安全に安楽に過ごしていただくために活用したい
- 自分の部署からでもこういうことなんだということを広めていきたい
- 改善したこともたくさんあるが、まだまだ認知症について知識もなくアセスメントもできていないと思った。同じ考えの仲間を増やしたい
- 上手く対応できない自分や病棟スタッフをみてジレンマを感じていたが、手掛かりをいくつか知ることができた

- 3) 病院・病棟の認知症看護の質改善・向上において、このような研修は必要か<回答理由・抜粋>
- 頭では学習したことがわかっている、日々の忙しさに追われて忘れてしまうことがあるため
  - 質の良い看護をしていくためには必要だと思う
  - 超高齢社会で認知症患者はますます増えて適切な対応が求められるから一人でも多くの人が研修に参加すべき
  - 認知症に対するマイナスイメージが強く偏見があるので、正しい認識が必要
  - アセスメントや関わり方の見直しになった
  - 管理職や教育的立場の人に必要だと思う
  - 患者さんを理解しアセスメントケアに活かして入院期間短縮、ADL を低下させない看護を行うことが大切と思いました
  - 認知症患者、高齢の患者さんの入院が多くせん妄、BPSD リスクが高く看護介入するにあたり研修に参加することで知識の向上、看護の質の改善につながる
  - まだ認知症についての知識が足りていない
  - 最新の情報や自己学習できない知識の習得ができるので
  - 認知症患者の対応についての知識と理解が乏しい
  - 自分自身の行動を振り替える機会が必要
  - 多くの人が同じ考え、目標をもって職場を変えていきたいので研修を受けて考える機会が必要だと思う
  - 自己学習だけではなくみんなで学ぶことが大切だと思っている
  - 認知症の方に対しての考え方、できないだろうと決めつけたりして、こちらの勝手な思いだけで看護介護しているので、病院全体で勉強して知識を付ける必要がある
  - それぞれの経験によって、患者さんをそれぞれの目で見ているから
  - 「認知症だから」のひとことで済ましている現状があるため、認知症と加齢に伴う変化を関連らせて考えることが必要だと思う
  - 知識の習得、ケーススタディをすることで質改善や向上につながる
  - 知識だけではなく、知識をどのように実践に活かすか、現場で活躍されている方からの話を聞くことができるから

## II. 研修の内容について

### 1. 自分にとって収穫があった講義・演習

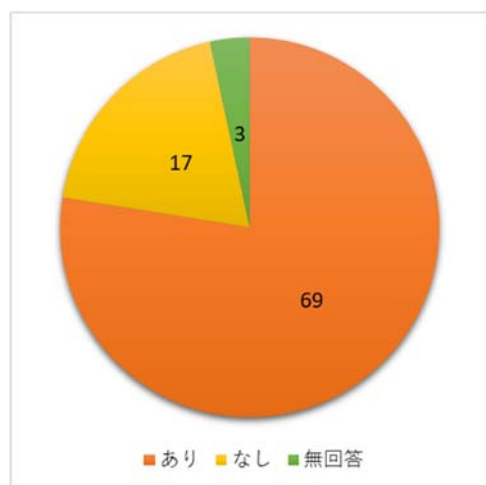


## 2. 追加して欲しい内容, 改善点<回答内容・抜粋>

- FAST の説明、AD の経過に伴う症状の変化の講義が少なかったから軽度～重度のアルツハイマーとあっても症状と結びついていかなかった（ワークの中で）
- 全体的に少しギャップを感じます。現場でも工夫しながら取り組んでおり、学習もされていると思います。また、認知症患者の前に高齢者患者の特徴など抑えるだけでも care の充実が図れると思いますが
- 地域連携などはほかの研修でも充実しているので、特化した部分だけでもいいと思いました
- 病態と治療の講義はもう少し時間が長ければよかった。空欄が書ききれなかった
- 演習が多かったので、あらかじめグループを指定してもらって交流が深められたと思う（人数も多く、スケジュールが過密で難しいと思いますが…）
- ポリウムが多いわりに時間が短い。2日間では無理
- 認知症ケア加算について（特に日常生活自立度ⅡとⅢの線引き、ケアプランなど）少しあればよかった
- 実際の現場で看護やケア、関わりについて詳しく知りたい。
- マネジメントの内容も追加してほしい
- 『せん妄の予防と対応方法』役には立ったが、認知症なのに突然せん妄が出てきて???でした。認知症とせん妄の関係性？みたいところは今一つ理解できませんでした
- 意思決定支援の技術習得のための演習をもう少し追加してほしい
- せん妄をもう少し内容を増やしてほしい
- 『認知症の病態と治療』内容と時間が見合っていないのかもしれませんが、講義をもう少しゆっくり丁寧に聞きたかった。資料の空欄も最初から記入してあるものを配布していただけたら聞きやすいと思います。
- 『認知症の病態と治療』はもう少し講義していただきたい
- せん妄と認知症がすごく勉強になりました。もう少しせん妄を講義内容に加えてくださっても良かったなとおもいました
- 倫理的な問題について参加者の中から事例を出したりするのも良いのではと思った（その病院の看護批判にならないよう、問題の本質をとらえて解決方法を考えるような）

## Ⅲ. 研修会後の病院・病棟での活用について

### 1. 研修会で学習した内容の病院・病棟での活用予定



#### 「活用予定あり」(n=69)の内容 (複数回答)

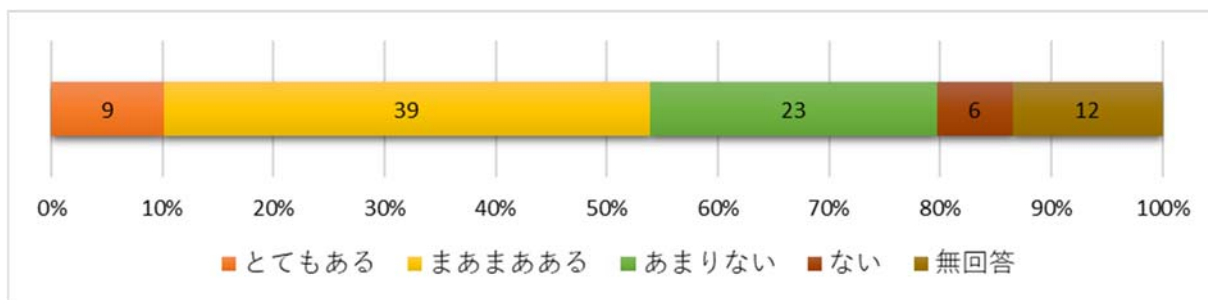
病院・病棟報告会	25名(36.2%)
伝達講習会	21名(30.4%)
マニュアル作成	10名(14.5%)
看護計画立案	20名(29.0%)
その他	10名(14.5%)



認知症ケアチーム・委員会活動  
研修会、講義、実習指導



## 2. 研修会で学習した内容を病院・病棟で活用・普及するにあたっての困難や障害

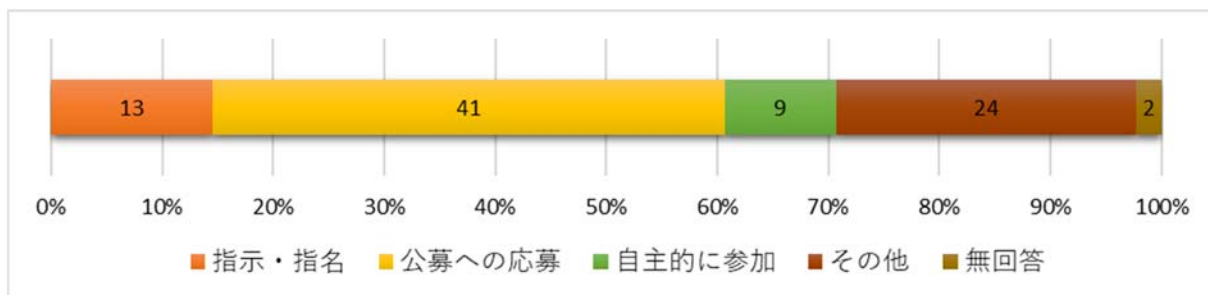


### <困難や障害が「とてもある」「まあまあある」と回答した理由・抜粋>

- 全員が同じ研修を受けることが不可能
- 時間をとってくれるか不安
- 病院・病棟の風土が悪い
- 新しい事柄をあまり受け入れない病院色のため
- 自分自身が中途半端な知識なので、他者に指導の仕方が難しい
- 関心を持たないスタッフがいる
- 業務が優先という考えが根強く、患者さん個人の意見の尊重が優先されにくい
- 職員の意識格差
- スタッフ数の不足から業務多忙で皆に余裕がなく、時間を要する認知症ケアに対する反発が大きい
- 業務が多忙で看護師の気持ちの余裕がない
- 同じ目標を今は持っていない
- 今の職場に勤めて間もないので、勇気と発言力がない
- 介護士さんの多い職場なので、同じような考え方を持っている人が少ないと普及が難しい
- 真面目に学ぶことをわかってはいるが、恥ずかしいと思い学習が長続きしない
- 病棟・病院自体の意識が変化するかどうか心配
- 産婦人科病棟であり去年12月より整形外科と一緒にになりました。整形の高齢者＋認知症の患者が増えて対応に困ることが多くありますが、助産師さんの力が強く普及できるか不安（長年勤めている人が多く新しいことの導入に抵抗がある人が多い）
- 1人では難しい。まだまだ自分が勉強する必要がある
- 看護部長が看護のレベルを向上させたいという強い思いを持っていないと感じている
- 医師・看護師の考え方の違い

## IV. 研修会への応募・参加について

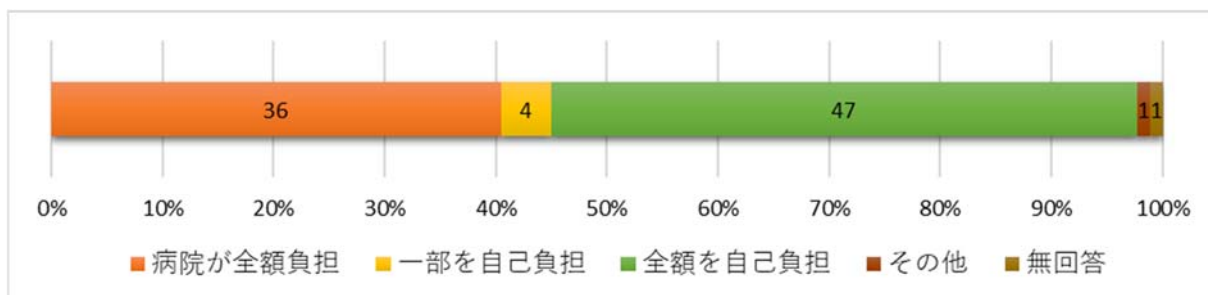
### 1. 研修会への参加の応募決定



＜「その他」と回答した理由・抜粋＞

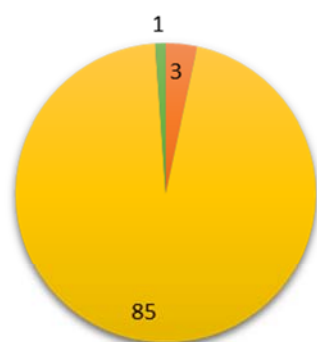
- 紹介、勧めで
- 受講者側に立って考えてみたかったので
- 看護協会の研修参加等の公募があつて
- 病院の案内で知ったが、看護師のみといわれていたがその後いけることになったので応募した

2. 参加費の支払い



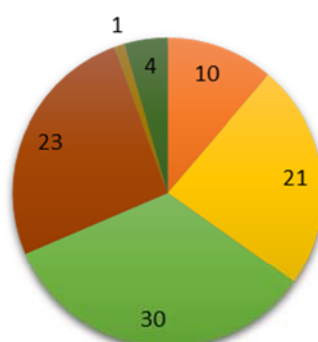
V. 参加者の概要

1. 性別



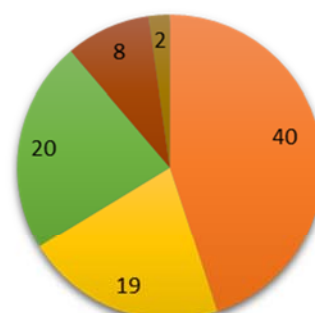
■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

2. 年齢 (平均 43.1±9 歳)



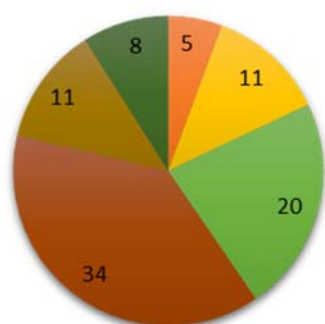
■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代  
■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 無回答

3. 職位



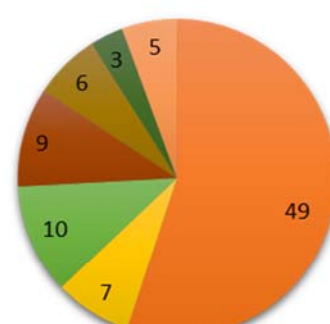
■ スタッフ看護師 ■ 主任・副師長等  
■ 師長・課長等 ■ その他  
■ 無回答

4. 看護師経験年数 (平均 19.2±9 年)



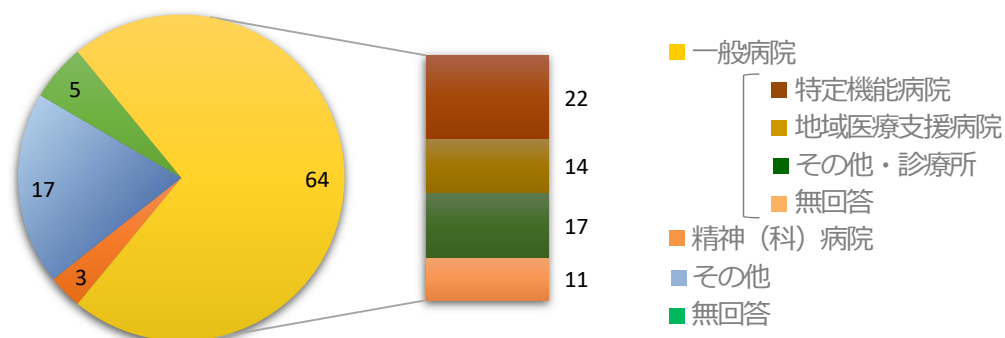
■ 5年未満 ■ 5～9年 ■ 10～19年  
■ 20～29年 ■ 30年以上 ■ 無回答

5. 最終学歴

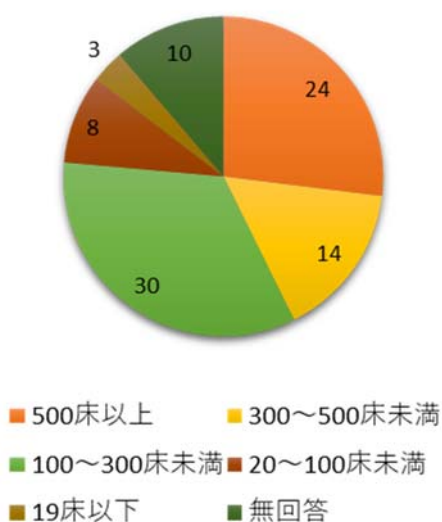


■ 看護専門学校 ■ 短期大学  
■ 大学 ■ 大学院  
■ 5年一貫看護師養成課程 ■ その他  
■ 無回答

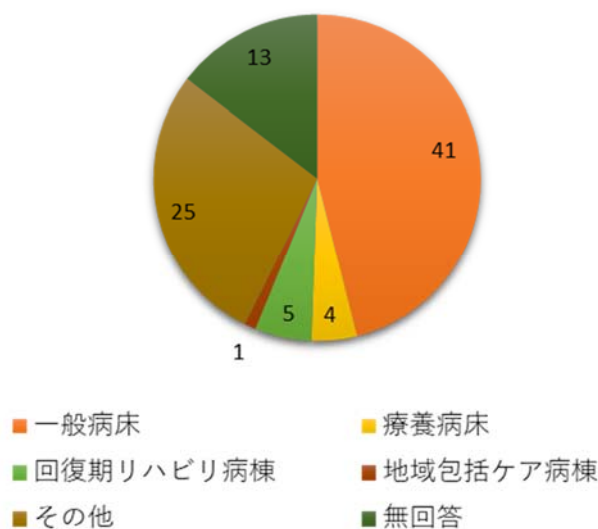
## 6. 勤務する病院の種類



## 7. 勤務する病院の病床規模



## 8. 勤務する病棟の種類



## VI. 自由記載

### 1. 感想（抜粋）

- どうしてもうまく対応できなかった患者さんに対して何がいけなかったのかずっと答えが出なかったが、何となく答えが出た気がします
- 認知症に対する知識・スキルが向上できたとおもいます。今後現場で役立てていきたいです
- 虐待、抑制に対する考え方・気持ちを新たにできました。気づいていなくても相手の立場で考えると…と少し反省もしました
- とても有意義な内容の研修でした。時間の関係で走っての講義でしたが、自分がこれまでの見えていない部分や視点があったことに気づけました。その方の生活の視点で見ることの大切さを学びました

### 2. 研修会の運営・環境について（抜粋）

- 日程のお知らせはがきがもう少し早く届くと良い（ホテルなど予定が立たないので）
- 3日間くらいの日程だと良かった
- 研修会場が狭く圧迫感があった。もっと広い場所でやってもらいたい
- 2日目は8:30開始、16:00終了でもよかったです（遠方から来られる人もいたので）
- 席をあらかじめ決めて、参加証の回収と返却をもう少しスムーズにしてほしい
- ディスカッションなどはもっと時間が欲しいと思いました。全く知らない施設にいる方とのディスカ

セッションはとても楽しく、もっと考えを深めていきたくかった

## VII. 総括

- 愛媛会場の申込者は91名であったが、1人がインフルエンザに罹患し欠席した。受講した90名全員が受講証明書を付与された。
- 受講者90名の内、35名が愛媛県外からの参加者であった。中四国のみならず、遠くは関東、九州からの参加者もあり、認知症看護への関心の高さが窺えた。
- グループワークの際に机を合わせやすいように一人一人に机がある講義室を会場としたが、ほぼ満席になったため、机を動かす余裕がなかった。体の向きは自由に変えられたので、グループでの意見交換には都合がよかった。
- アンケート結果から、参加証の回収と返却に対するご意見をいただいた。午後の参加確認は、会場の都合上、昼休みの終盤に会場内で回収することとなったが、昼休みに会場外に出た方々にとってはどこで回収されるのか少々の混乱を招いたようであった。しかし、2日目も同様の手法で回収と返却を行ったが、滞ることなく終えることができた。

### <運営組織>

代表：陶山啓子（愛媛大学 教授）

司会：竹田恵子（川崎医療福祉大学 教授）

講師：原祥子（島根大学 教授）

谷向知（愛媛大学 教授）、

吉岡佐知子（松江市立病院・老人看護専門看護師）、

西山みどり（有馬温泉病院・老人看護専門看護師）

野村陽子（高知県立大学・老人看護専門看護師）

陶山啓子（愛媛大学 教授）

運営企画委員：小岡亜希子（愛媛大学 講師）

中村五月（聖カタリナ大学 講師）

片上貴久美（愛媛大学 助教）

藤井晶子（愛媛大学 助教）

曾根司央子（愛媛大学大学院生）

濱田良子（愛媛大学大学院生）